

総務産業委員会報告書

令和8年7月28日

備前市議会議長 石 原 和 人 様

委員長 青 山 孝 樹

令和8年7月28日に委員会を開催し、次のとおり調査したので議事録を添えて報告する。

記

案 件	調査結果	備考
1 企画政策についての調査研究 ① 行政評価の取組について	継続調査	——
2 水道事業についての調査研究 ① 現状と全体像について	継続調査	——
3 下水道事業についての調査研究 ① 現状と全体像について	継続調査	——

<報告事項>

- これからの「公共施設のあり方」を話し合うタウンミーティングの開催状況について
(施設マネジメント推進課)
- 有機農業推進会議（仮称）の開催について（産業振興課）
- 交通事故の報告について（交通政策課）
- 市営バス無料チケットについて（交通政策課）

《 委員会記録目次 》

招集日時・出席委員等	1
開会	2
報告事項	2
閉会中の継続調査事件について	13
企画政策についての調査研究	13
水道事業についての調査研究	17
下水道事業についての調査研究	22
閉会	24

総務産業委員会記録

招 集 日 時	令和8年7月28日（火）	午前9時30分		
開議・閉議	午前9時29分	開会　　～	午前11時44分	閉会
場所・形態	委員会室	閉会中の開催		
出席委員	委員長	青山孝樹	副委員長	松本　　仁
	委員	尾川直行		森本洋子
		石原高志		杉原五郎
		尾尻雄平		
欠席・遅参・早退委員		なし		
列席者等	議長	石原和人		
傍聴者	議員	中村国広	藤原智恵	
	報道	あり		
	一般	なし		
説明員	総務部長	石原史章	施設マネジメント推進課長	高坂　　泰
	総合政策部長	榮　研二	企画課長	木和田純一
	交通政策課長	河上洋之		
	産業観光部長	桑原淳司	産業振興課長	青木克行
	建設部長	河井健治	水道課長	行正英仁
	下水道課長	野崎信二		
審査記録	次のとおり			

午前9時29分 開会

○青山委員長 ただいまの出席は7名でございます。定足数に達しておりますので、これより総務産業委員会を開会いたします。

本日は、各課からの報告事項をお受けした後、閉会中の継続調査事件に関する調査研究を行います。

それでは、レジュメに従って各課より順次御報告をお願いします。

なお、報告事項ごとに質疑を行い、質疑が終了した案件の説明員の方におかれましては、都度御退室いただいて結構です。

それでは、これからの公共施設の在り方を話し合うタウンミーティングの開催状況について、報告をお願いいたします。

○高坂施設マネジメント推進課長 施設マネジメント推進課から6月の総務産業委員会で備前市民センター、日生市民会館及び吉永地域公民館の各ホールの改修並びに今後の施設の在り方についてのタウンミーティングの開催について報告をしておりましたが、そのタウンミーティングの開催状況について御報告いたします。

6月20日市民センター、27日日生市民会館、7月4日吉永地域公民館においてタウンミーティングを開催したところ、市民センター27人、日生市民会館22人、吉永地域公民館25人の参加者がありました。岡山大学名誉教授の三村先生をコーディネーターに、まずは現状と課題を共有するため公共施設を取り巻く現状と課題、公共施設マネジメントの基本方針、市が直面している戸惑い、タウンミーティングの目的を説明し、その後三村先生より他市町と備前市の比較から備前市の状況と施設マネジメントの必要性などが説明され、その後参加された方々よりいろいろな貴重な御意見をいただきました。いただいた意見についてはお配りしている資料のとおりでございます。

市民から寄せられた各地区の主な意見のまとめを御紹介いたします。

備前地区では、市民センター等の文化交流拠点としての価値を評価しつつも維持管理費の増加等から現状のまま維持することは難しいとの意見や、新たに整備予定の図書館との関係について、ホール機能や市民活動機能をどのように整理、複合化していくのか、丁寧な説明を求める声、個別施設の統廃合に矮小化せず、防災、教育、福祉、観光、地域交通など市全体のまちづくりの中で検討すべきとの意見が示されました。

日生地区では、市民会館や公民館は港町の歴史や文化、人とのつながりを継承する場であり、利用率や維持管理費などの物理的指標だけでは計れない価値があるという意見、施設という建物がなくなること以上に地域の文化や交流の場が失われることへの強い不安や危機感、行政の継続的な情報提供を求める一方、市民自身も地域づくりの担い手として関わっていききたいという前向きな意見がありました。

吉永地域では、中心部の新施設整備や投資に対し周辺部の老朽化対策が後回しにされているのではないかという公平性への懸念があり、投資判断の透明性確保を求める意見、公共施設は地域

行事や伝統文化を長年育んできた場であり、施設を残すこと以上に文化や活動を未来へつなぐための手段を担保してほしいとの意見、高齢化が進む中、施設を統廃合、集約化する際にはそこへアクセスするための移動手段の確保が不可欠であり、施設マネジメントと交通政策の一体的検討が強く求められたことなどでございました。

感想としては、今回のタウンミーティングを通じて公共施設は単なる建物ではなく、市民の暮らしや文化、つながりを支える基盤であると感じました。また、三村先生は公共施設の再編は行政主導で進めるものではなく、市民、行政、議会が共通の理念を持つことが前提であり、今回のタウンミーティングは結論を出す場ではなく、対話の第一歩と位置づけられるものであるとされており、今後も情報共有と継続的な対話を重ねることで市民参加による地域づくりを実現していく必要があると考えております。

このタウンミーティングは、令和8年2月議会での備前市民センターほかの空調設備改修費を減額する一般会計補正予算の委員会修正案が可決されたことを受け、3施設の今後の方針決定を行うに当たって市長が大切にしている市民の声を聞くとの原点に立ち返りタウンミーティングを行ったもので、今現在意見を基に協議を行っているところでありますので、ここでは方針決定についての内容や進捗について御説明することはできませんので、御理解を賜りたいと思います。

タウンミーティングの開催状況についての報告は以上でございます。

○青山委員長 報告終わりましたが、質疑のある方の発言を許可します。

○尾川委員 参加者数を書いてあるけど、これについての評価は。併せて岡大の副学長はゼロ回ということで、期待してまたやるかなと思うとったら3回で終わってしまっと思うけど、そのあたりについて伺いたい。

○高坂施設マネジメント推進課長 参加者については一番初めに6月の総務産業委員会で御報告したときになんか少ないということで御意見もいただきまして、その後このぐらいの参加者が集まったというところでは一応私のほうではよかったなと思っていますが、市民全体の声を聞いたということではありませんで、この参加人数というところはもし次の回をするときにはもっと増やしていきたいなというところでございます。

それから、三村先生も今回はゼロ回目だというところで申し上げておりました。私のほうも今回は市民の方とのスタートに立てたのかなという感想を持っております。ですので、今後どういうふうに、またタウンミーティングしていくかどうかということも三村先生ともお話をしながら開催に向けては調整していきたいと思っております。

○尾川委員 参加者数について、利用者の意見まとめられて、こういう発言があったかどうか、私は日生とか吉永は参加していないけど、この意見が出たのかなと思いながら、どういうふうに意見聞かれたんかと思うて、そのあたり詳細を教えて。

○高坂施設マネジメント推進課長 3地区とも進め方は同じでございます。市のほうから説明を、背景とかどういうところを市が懸念しているかという課題をお話しして、その後三村先生のほうで市民の方から、参加された方から意見をいただいたと。簡単な小さなグループをつくって

いただいて、グループで話し合いをしていただいて、代表の方に発表していただくという進め方で3地区続けて行っております。それで、出てきた意見を今お手元に配っているとおり意見を集約したというところでございます。

○石原（高）委員 私吉永のほうへ参加させてもらったけど、先日市民の方がうちに訪ねてこられてよう分からなんだという話をされて、その中で一つスマホを持ってこられてとって、スマホを開いて備前市全体の地図が出てきました。その中で、だいたい色の地域が日生、備前地区にあって、吉永地域だけ真っ白で、吉永だけ対象外にされとんかという質問があったけど、これはどういう意図でそういうものが出てくるのかを教えて。

○高坂施設マネジメント推進課長 スマホで見られた地図ぴんとこないですけど、どのような地図だったのでしょうか。

○石原（高）委員 その人よそから移住してこられた方じゃけど、一生懸命地域をようしていこうと、吉永でいえば神根地域、人口の少ないところだったけど、その地域の方が結構来られてたけど、その中でスマホを開いてこういうことを備前市が今やっている、ここの図面を見てくださいと、備前市全体の地域の図面が出てきた中でこういうところを改革していきますよという地域を示されているところが日生と備前地域、吉永だけは白い地域で対象外になっとったんで、これ調べてと言われたんで、今日は問合せなんだけど、いきなりこう言われても分からんかも分からんので、それに関連するところを探していただいて、また後で伺いますけど、その辺私が説明できるように説明をしてもらいたいということが一つと、僕その場で言わせてもうたけど、この間のやり方について先生はお互いに対峙をしたくないと、建設的な意見を述べてもらいたいということでこういうふうに対面で話しするんじゃなしに執行部のほうは後ろのほうで黙って聞くという形を取られとったけど、会話があまりできないということがあった。それと最初と最後に先生が説明をされたけど、その間にグループ討議をして時間稼ぎじゃねえんかなという意見もあったけど、結局2時間の有意義な時間をグループ討議で話をして、結論、発表するという形を取られただけど、結局皆さんとお話をする時間がなかった、少なかったという意見がありました。

これからもこれはもっと続けていくべきだと思うんで、これからどうしようかという話が今あったと思うけど、一回で終わらすんじゃなしに続けていただきたいと思うし、私の地域ではエアコンが調子が悪いというのを今からどうしようかということで考えるんじゃなしに悪いもの、使えないものは直してほしいというところもあります。

○高坂施設マネジメント推進課長 地図のほうは私も今話を聞いた限りでは分かりませんが、空白地があるというところでは今回3地区回らせていただいたときに市の投資の不公平さ、公平性がないという声もお聞きしております。日生、吉永からも出ておりますので、投資の公平性は今まで市が皆さんに説明してできてないところがたくさんあるというところはタウンミーティングで意見いただいて思っているところでございますので、その辺は今後施策では直していかないといけないところだと思っております。

あとやり方、今回吉永地区もそうですけど、職員が後ろに座らせていただいたというのも今回

市から説明をさせていただいて、その課題を共有していただいた後に市民の方から意見をいただくというのが市の目的だったので、後ろのほうにいましたけど、御指摘のとおり市のほうにもお話していきたいという声もいただいていますので、今後やるとしたときには机の配置とか、それからグループ討議しやすい机の配置とかもちろん検討させていただきますので、また御意見等がありましたらいただきたいと思います。

それから、何回も言いますけど、今回先生もゼロ回目ということでやっと市民の方に問題を提起しまして、その問題について市民、行政、議会の方も一緒に目的を持って話し合いを進めていくのが大切だということがありますので、2回目、3回目、1回目になるんですかね、1回目、2回目、3回目と続けていくというのは今後考えていく、もちろんやっていかないといけないと思っておりますので、その回数とか内容は三村先生とも話をしながら決めていきたいと思っておりますので、決まりましたら報告させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○杉原委員 石原委員おっしゃったことの地図の話ですけど、僕も同じような話を聞いている部分があって、都市再生特別措置法に基づく備前都市計画区域の対象地域の話だと思います。吉永地域だけが都市計画地域に入っていないということは指摘されていて、そのことは別件で存じ上げているので、一応そこは申し上げておきます。

今言ったその備前都市計画区域を調べてもらおうとそこは出てくると思います。情報の提供といえますか、そういうことの地図の話だったと思います。

○高坂施設マネジメント推進課長 ありがとうございます。吉永地域は都計区域じゃないというのは私も存じ上げています。

○杉原委員 多分その話をされたかなと。

○高坂施設マネジメント推進課長 都市計画区域ではないのは確かですので、そこに投資をしないとか、そういう話ではないとは思っていますので、私も都市計画の専門ではないので、そこはまた担当に聞いていただけたらと思います。

○杉原委員 人数ですね、さっき尾川委員もおっしゃったが、27人、22人、同数ぐらいが吉永で来られてたが、アナウンスされた日取り、告知されてから開催までの期間は非常に短かったと思います。我々もそのことを聞いて急いで一人一人のSNSの力を使ったりして告知した状況で二十何人という集客、集まっていたいたという感じでした。日生エリアに関してはたしか委員会で何人ですかって聞いたときたしか1人だったので、告知期間に対する課題は残ってると思います。

あとは告知方法ですね。広報の日生でも告知されている部分もある、LINEでもプッシュ通知もあるが、もう少し余裕を持った、より市民に知っていただくことに関してはいかがでしょうか。

○高坂施設マネジメント推進課長 それはおっしゃるとおりです。今回、広告の期間については二、三週間を取ったと思うんですけど、広報に載せたというところで私も一応周知したと思ってたんですが、開けてみるとおっしゃるとおり日生地区は1人ということになりました。指摘を

いただきまして、SNSとかで流した結果、やっとこれだけ集まっていたと。それから、議員の皆様にも御承知いただいたというところで大変ありがたく思っております。ですので、次回については今回の反省を生かしまして、なるべく期間を取りまして、あと周知の方法、そこは今回のことも参考にしながら広くしていきたいと思っておりますので、御指導よろしく願います。

○杉原委員 いろんな属性の方が参加されたいという希望が開催の後でもありました。スマートフォンだけの情報を拾えない方とかは単純にA4のチラシ1枚でも分かりやすいものがあれば参加されようかと思しますので、そういったいろんな人に参加してもらうということを配慮していただけるとよりよくなるのかなと思いました。

○森本委員 今協議中なので、結論は出せないことだったけど、公共施設今年度中にとのことですけど、このタウンミーティングは空調に関してある程度絞ってされたと思うけど、これを早めに協議して結果を出される予定でしょうか。

○高坂施設マネジメント推進課長 先ほども申しましたが、空調設備に限って、空調設備のことが契機となってタウンミーティングをしたんですけど、私もそのつもりでタウンミーティングやるんだなと思ってたんですが、タウンミーティングをやってみると先生もそうですし、市民の方も空調設備だけのことではないということが私も分かりました。ですので、先生もタウンミーティングの中でおっしゃられてましたけど、木も見て森も見るというところを言われてましたので、空調設備だけを捉えて直すか直さないかという限定的な話だけには終わらないのじゃないかなと思っているところがありますので、空調設備直すか直さないかという結論はすぐ出せるものじゃないかなと思っているところがありますので、理解いただけたらと思います。

○森本委員 皆さんのこの回答の話したら予算が回ってきてないとか、計上されてないというコメントもあったけど、予算オーバーした上で予算を執行しなさいと議会の判断の下で今回されてると思う。だからこれ参加者の方に正確に情報が伝わっているのかどうかというのがこの文面だけ見て思いました。テーマを決めてされるのであれば情報は正確な基でされるほうが、これだったら予算をつけてもらってないというコメントもありましたから、それは違うのではないかと感じたので、今後開催されるのであれば、テーマを絞ってされるのであれば情報をしっかり、正確な情報を伝えていただいた上でしていただけたらと思います。

○尾川委員 9月の議会に提案する言よったわけじゃ。そう理解しとる。9月の議会にこんなことしよって間に合うんかな。何を目的にしよんで。もう空調をやめるという話しようと思うとんじゃ。いろいろやって、結局何したか分からん。利用者は何も意見言わせてもらえなんだというて文句言っただけじゃ。全然食い違いというか、そごがあるわけじゃ。だから、何を目的にして、市長に聞いとんのは9月の議会には提案したいというふうに理解しとるわけ。要するに下準備でこういうタウンミーティングやっていつつなげていきたいと。やめてえんじやろけど。そういうわけにいかんのかねえかと思う、実際問題として。どねえ考えとん。9月に提案するんか、やるというて。議決しとって一応3つでやらにゃ話つかんわけじゃ、皆。話つかん

から3つともやらにゃおえんわということを結論しとるわけじゃ。どこも譲らんわけじゃ、どっこも。3つとも要る言よんじゃけえな。

9月に出すか出さんのかをはっきりしてほしい。

○高坂施設マネジメント推進課長 9月に出すか出さないかというのは今協議中でございますので、そこは御理解いただきたいと思います。

○尾川委員 赤磐市、瀬戸内市、近隣の自治体のこういう施設について調査して、どういう実態になっとうか。瀬戸内市は中央公民館この間改修しとる。ゆめトピアがある、牛窓にもあるわけじゃ。赤磐市にも赤磐中央公民館あって、熊山にもあるわけじゃ。そのあたり詳しいことをどのくらいのキャパでどういう実態になっとうか具体的に調べて。何も資料もねえわけじゃろ。へで、閉める、閉める言よるわけじゃ。話つかんわけじゃ、皆。要る言いよるわけ、皆。

○青山委員長 調査のほうできますか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

よろしくお願いします。

次に、有機農業推進会議（仮称）の開催についてお願いします。

○青木産業振興課長 産業振興課から有機農業の推進会議（仮称）の開催について御報告させていただきます。

有機農業の推進につきましては、推進のほう進めてきたところであります。耕作放棄地の解消や担い手の確保につなげるとともに小規模であっても高収入を実現し、持続可能な地域農業を次世代へつなげていくという目標を具体化していくためにこの協議会の立ち上げの準備をしてまいりました。今般、取組の中心を担う協議会の立ち上げに向け、しかるべき方々の選定と日程調整ができたことから、明日7月29日水曜日午後1時からこの市役所本庁の3階大会議室において有機農業推進協議会を開催することになりましたので、御報告いたします。

今後は、協議会で備前市としての有機農業の推進方針を定めて取組実施に向けた検討をすることになります。協議会の名簿についてはお配りしております資料のとおりでございます。

○青山委員長 説明終わりましたが、質疑のある方の発言を許可します。

○尾川委員 瀬戸内市はもうやりよんじゃ、たしか。名称は別として。その辺調べとんかな。取組方法について。

○青木産業振興課長 瀬戸内市は把握しておりませんが、県内と近隣のこういうことをやっている市町には視察は行っております。

○尾川委員 よその取組、ある程度先例があるわけで、それをまねしていきゃあええわけじゃから、そういうのを調べて、一遍。

○青木産業振興課長 先ほど言いましたように先進地視察の方も事務局でやっておりますし、この協議会の中でもする予定でございますので、そういう先進事例を参考にさせてもらって進めていきたいと考えております。

○尾川委員 遠くのほう行かんだって近所でやりよるからな。そういう連携してから取組すりゃ

ええと思う。何も遠いほう行けばあじゃのうて。

○青木産業振興課長 県内でも今2か所新庄村だったり、和気町さんもやっておりますので、そういうところに視察も行っておりますので、そういった近くでもやっているところもありますので、そういうのも参考にしていきたいと考えております。

○石原（高）委員 これやるということは賛成ですけど、隣の和気町やっとなじゃねえかな。

○青木産業振興課長 おっしゃるとおりでございます。

○石原（高）委員 農家の代表の方からいろいろ話を聞きよんじゃけど、一生懸命やろうかと思ひよんだけど、市の担当者が一個も動いてくれんという話をよく聞くけど、ここでこういう会議を開いてくれるということは本腰を上げてやってくれるというふうに思えばええわけ。

○青木産業振興課長 本腰といいますか、それに向けて準備これからしていきますので、そういった中で、協議会の中でも話し合いができて進めていくんじゃないかと考えております。

○石原（高）委員 この間三石で田植えまつりやったと思うけど、そういうグループが一生懸命やっていると思うんで、しっかりと後押しをしてやりてえと思うけど、市もしっかりと進めてやってくださいということです。

○尾尻委員 僕もこれは本当にいいことだと思うが、どういったやり方でやっていくとか、何かそういうのを市民の方に説明したいけど、その説明のしようがまだ分からないんで、何か分かりやすいようなこういう田んぼじゃないと駄目とか、こういうことをやってたら駄目とかという説明は何かできますか。

○石原（高）委員 説明といいますか、あしたの協議会で事務局からの説明もありますし、有機農業とはこういうものですよという説明もする予定ですので、そういった中でお示しできたらと思います。

○森本委員 これ、県のほうもみどりの食料システムの基本計画をしてますよね。それにのっとっていかれると思ってるけど、結局この推進協議会では備前市の基本計画を策定されるということとでよろしいですか。

○青木産業振興課長 備前市のモデル、備前市の計画を立てるということでございます。

○森本委員 ということは、今年度中に計画完成させて来年度から取り組む、スケジュールを教えてください。

○青木産業振興課長 そういったスケジュールの話もあしたの会議ではあるとは思いますが、そういったスケジュールで考えております。

○松本副委員長 この件は誰かが質問して市長が有機農法を推進していきたいということから今回始まったと思うけど、まず有機農法とは何かということを、これ幅広いですよ。何がポイントかをもうちょっと絞らんと一般論として有機農法というたら無農薬とか、遺伝子組換えとかもろ含めてでいろいろあります。これフォーカスするぐらい市として何を目的にするかを、さっきいろいろ質問ありましたけど、ここをまずはっきりしないと有機農法というていろいろあります。そこをちゃんと勉強するというか、きちっと調べてもう焦点を絞ってほしいと思う。どうで

しょうか。

○青木産業振興課長 委員おっしゃるとおり有機とはたくさんありますけども、備前市ではどういった有機を進めていくかを明日から始まる協議会で議論していくことになりますので、そういったことは中で勉強はしていくことになります。

○松本副委員長 そういうことを考えたときにこの人選、どういう人かよく分かりませんが、所属とか見たらこの中で本当に分かってる人、それなりにセミプロ、そういう人がおるかなと。何となく農業とは関係ない人が適当におると思ったりもする。人を選ぶのにどういうことを考慮したんか、何かあったら教えてください。

○青木産業振興課長 農業者につきましては稲作での有機農法に知見のある方や地域営農で中心的な役割を担っている方を選定しております。そのほかには雑草額の専門の沖岡山大学名誉教授も会員になってもらっておりますので、そういった中で有機農法についての話は進めていきたいと思えます。

○松本副委員長 気になったのは具体的に言って申し訳ないけど、桑原産業観光部長、それから教育委員会の、農作物を作るとか、有機農法そのものを進めていくとかということだけじゃなしに販路を開拓するとか、子供の教育とか、何となくもやっと思っている気がすんですよ。そういう意味でもフォーカスを絞って何を目的にするんかというのを絞ったほうがいいと思うけど、どうでしょう。

○青木産業振興課長 メンバーがこれで固定というわけではございませんので、協議を進めていく中で販路の面であったり、そういうところで新しい委員が必要じゃないかというときには追加ができるようになっておりますので、それは協議会の中で必要であれば委員さんは増えていくんじゃないかと思っております。

○青山委員長 ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、以上で報告事項を終わります。

続いて、交通事故の報告について御報告願います。

○河上交通政策課長 交通政策課から交通事故につきまして御報告させていただきます。

6月30日火曜日午前10時41分頃、デマンド車両が三石の野谷方面から市道須通線を国道2号へ向けて走行中、株式会社大平付近の緩やかなカーブに差しかったところで大型トラックとの接触事故が発生いたしました。事故の状況につきましては、デマンド車両の進行方向を塞ぐ形で大型トラックがデマンド車両の車線側へ大きくはみ出してきました。デマンド車両の左側には側溝があり、避けることができず急ブレーキを踏みましたが、デマンド車両の右前方と大型トラックの右前方が接触したものでございます。

デマンド車両には利用者を降ろして次の目的地へ向かうところであったため同乗者はなく、運転手にけが等はございませんでした。現場付近の道路は大型トラックが多く走行するため、他の運転手に対しましても十分注意するよう連絡したところでございます。引き続き、運行における

安全確保につきまして改めて徹底してまいります。このたびは申し訳ございませんでした。

○青山委員長 報告が終わりましたが、質疑ある方の発言を許可します。

○尾川委員 交通事故はちょろちょろ出て専決でこられるけど、その辺の統計はあるのかな。デマンドではそうやけど、例えば公用車の事故でもあって処理したらしましたで済むけど、本人、Aさん、Bさんというわけには。傾向とか、普通会社やったら大体どういう災害が起きてどういう交通事故があってという統計取っていきよんじゃけど、そんなもんあるのかな、備前市には。

○河上交通政策課長 私たち交通政策課では何年にどういったことが起きたというものは統計というか、集計はしております。市の全ての公用車の中でどうなっておるかはこちらでは把握しておりません。

○尾川委員 全体統計を出してもらいたいということと、専決になると思うけど、それについてのフォローというか、交通事故の防止について対応していきよんかという、どういうふうにしよるわけ、実際現場では。

○河上交通政策課長 実際は民間の研修、講座、講習、そういったもんもあるんですが、なかなか人も限られておるところで十分な研修等はできておりませんが、こういったことが起きた際には口頭での指導、注意等を行っておるところでございます。

○尾川委員 自動車の数も増えてきとるし、何か大きな事故あって、飲酒運転することはないと思うけど、そういう問題あったりするんで、これからの管理状況もきちっとまとめて出してもらいたい。全体の交通事故の件数とか傾向とか、個人的にどうこう言うわけにいかんと思うけど、そういった全体で。誰が上司になっとなかな。その辺の意見聞かせてもらいてえ。

○河上交通政策課長 公共交通の関係であれば私及び榮部長になろうかと思います。

○石原（高）委員 今回事故があったところはほとんど鉱山の大きい車がどんどん通るところで一般車両はあまり狭くて通らんけど、公の車はあそこを通らにやいけんのですか。

○河上交通政策課長 このたびは野谷方面の利用者であったため、次の場所に行くのに2号線に出ていく状況であったことからそちらを走行した形にはなっております。割と委員おっしゃられるように大きなトラックも来ております。というところで、そういった辺も今後あまり通らないようにとかという形でも検討したいと思います。

○石原（高）委員 あそこは特別狭いというところと、あと近道というところがあるんで、急ぎよる人は皆近道使うけど、体育館のほうへ大回りすれば広い道があって使えるから、それとあそこはもう危険じゃと分かっとなんじゃから、接触したということを聞いたらスピードの出し過ぎじゃねえかなと思う。普通はあれだけ交通量が、大きい車が通って狭い道なんじゃから普通は30キロとか徐行に近い運転になるから、僕らが運転していてもぶつかるようなことは相手がスピードを出しとったんかも分からんけれど、しっかりと教育してやってください。

○青山委員長 ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、市営バス無料チケットについてお願いします。

○河上交通政策課長 続きまして、市営バス無料チケットにつきまして御報告いたします。

あまり多く知られてはおりませんが、日本で初めてバスの営業運行が開始されたことを記念して9月20日がバスの日となっております。今回、このバスの日にちなみまして市民の皆様の公共交通の利用促進と地域の重要な移動手段である市営バスに乗っていただくきっかけづくりとして、「広報びぜん」9月号に市営バス無料チケットを掲載する予定で準備を進めております。

チケットの内容は往復2回分、片道換算で4回分となります。有効期限は9月1日から9月30日までの1か月間を予定しております。この取組を通じ、ふだん車で移動されている方やこれまでバスを利用になったことがない方にもこの機会にぜひ乗車体験をしていただきたいと考えております。また、市営バスの利用にとどまらずJR赤穂線や山陽本線、さらにはデマンドタクシーとの乗り継ぎなどにも活用いただくことで地域全体の公共交通の活性化へとつなげてまいりたいと考えております。

○青山委員長 報告が終わりしたが、質疑のある方の発言を許可します。

○石原（高）委員 今回の取組いいと思うけど、取りあえず体験してみないと分からないこと結構あると思う。高齢者が結構いるけど、買物に行くのにバスを利用することは非常にええけど、今まで乗ったことねえから不安があると思う。各地域でこういう話があるんじゃないかとということで高齢者をまとめる人が1人おって、そういう形で一度体験してみませんかという買物ツアーとか、体験してもらえばええかなと思うけど、その辺はどうでしょうか。

○河上交通政策課長 確かにそういうふうに高齢者の方で利用するのは不安とかというお声は聞いたことがあります。委員言われる買物ツアー的なものは我々でどこまでできるかというところもあるので、その辺は難しいかなと思っております。

○石原（高）委員 高齢者今免許証を返上していきよんじゃけど、一番重要なのは病院へ通うことと買物するという。買物難民が今一番困ってると思うけど、三石もお店がないということがあります。体験してみないと、乗ってみないとどういう便利差があるかが分かんと思うんで、ぜひとも買物について一度バスに乗って備前のスーパーに行くとか、今赤穂にも行けると思うけど、そういうことを体験して、自分で買物してこれは便利だなということが分かれば友達を利用して一緒に行くとかという形で利用者数が増えると思う。今どんどん減っていきよると思うけど、減っていったからまた便数を減らしていくということで悪循環が続いていると思うんで、どうしても増やしていこうと思うたら体験さすことが必要だと思うんで、ぜひともこういう形があるということを市民全体に知らしめて買物ツアーをやりませんかとかという形で一度体験してもらうんがいいかなとは私は思いますんで、できたら考えてほしいと思います。

○河上交通政策課長 市でなくても地域の方々と連れなつて買物行こうとか、そういった形でまず始まっていったらいいんじゃないかなとは思っております。買物は重たいものがあつたりもするでしょうし、その辺でお互いで助け合いながらツアーに、それとバスに乗っていただくとか、そういったこともあろうと思いますので、その辺でよろしくお願ひしたいと思います。

○杉原委員 バスの日は毎年あるんですか。

○河上交通政策課長 バスの日ということで9月20日がその日にされていますので、そのところは変わらないと思います。

○杉原委員 どのくらい前から開催されていますか。

○河上交通政策課長 このたびが実施するのは始めてでございます。

○杉原委員 今年初めてですか。前まではあったけど、今年初めて開催になったのか、9月20日はバスの日だったけど、無料で乗れるのは今年初という認識でしょうか。

○河上交通政策課長 そのとおりです。9月20日は以前からあったようでございます。この日にちなんでも今回初めて市として無料バスチケットを発行するという形でございます。

○杉原委員 先ほどの討論の中でもあったけど、乗っていただいて周知するという事は非常効果があると思う一方で、目的がはっきりあるのかと思うが、お伺いすることはできますか。

○河上交通政策課長 先ほども言いましたが、これまで乗ったことがない方ということで無料で体験していただいて、今後の外出機会の創出につなげていただけたらと思います。

○杉原委員 予算はどこから出てるんでしょうか。予備費か何かですか。

○河上交通政策課長 予算は特には発生いたしません。広報紙の表紙、今のところ表紙に載せ掲載させていただこうと考えておりますので、広報紙を印刷、広報紙の下の辺に無料チケットをもう一緒に印刷をさせていただきます。その広報紙を切ってバスに乗りいただくという形で行います。

○杉原委員 特に予算をかけて何かっていうんじゃなくて、もう単純に100円、200円払ってるものをただで乗ってもらうっていう理解でよろしいですか。

○河上交通政策課長 そのとおりでございます。

○森本委員 その前の答弁だったが、赤穂のほうにという話もあったけど、ていじゅうろうは入りませんよね。

○河上交通政策課長 市営バスのみとしております。

○石原（高）委員 多少予算取って赤穂にも行ってもらいてえと思う。

それと、何枚出す言われたかな。

○河上交通政策課長 4枚になります。往復でいえば2往復分、片道で行けば4回ですね。ですから、4枚です。

○石原（高）委員 基本的にバスに乗るだけじゃからお金はかからんと思うんで、もっと出してもいいかなとは思いますが、もうちょっと増やす方法で考えてほしいとは思っています。

○河上交通政策課長 このたびはそういった乗車体験とかというところで始めますので、取りあえずは4枚という形でさせていただこうと思っております。

○石原（高）委員 バスの日にちなんでするのはええけど、回数を増やして年に何回かこういう体験ツアーを、バスに乗るということ自体がお年寄りなかなか慣れてないと思うんで、バスの日だけじゃなしにほかの日もつくってもらえたらとは思っていますんで、検討してください。

○青山委員長 ほかにありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので、以上で報告事項を終わりたいと思います。

暫時休憩をいたします。

午前１０時２２分 休憩

午前１０時４０分 再開

○青山委員長 委員会を再開します。

続きまして閉会中の継続調査事件に関する調査研究を行います。

まず、企画政策についての調査研究ということで、行政評価の取組についてお願いします。

○木和田企画課長 行政評価の取組につきまして御説明をさせていただきます。

備前市におきましては、備前市まちづくり基本条例におきまして市は行政評価について内部評価と外部評価の両方を行うように努めることというふうに規定されております。その中でPDCAサイクルに基づきまして施策や事務事業の有効性、効率性、必要性を内部評価するとともに透明性と客観性を担保するために行政評価市民委員会による外部評価を実施しております。

市が実施する政策、施策、事務事業につきましては、予算額や人員をどれだけ投入し、その結果として市民の方にどれだけの効果があったか、当初想定した目標に達しているか、これを数値などの客観的視点を用いまして評価、検証を行うことによってさらに効果的、効率的な方法や手段の改善につなげることを目的とするものでございます。

なお、昨年まではこちらの杉原委員のほうにこの外部評価である行政評価市民委員会の委員として御協力いただきましてありがとうございました。

○青山委員長 質疑を希望される委員は挙手を願います。

○杉原委員 先ほど御紹介いただいたが、私去年行政評価の委員として参画させていただきました。ありがとうございます。

多分新人委員もいらっしゃるの、行政評価がどういうスケジュールで行われているかはあまり分からないと思うけど、そこを説明していただいていいですか。

○木和田企画課長 この事業につきましては総合計画の中で事業が大きく８つの策がございます。その中から事業、昨年とか一昨年でこの行政評価を実施していないもの等を選定いたしまして、その事業についての評価を８つの事業ですので、年に４回の委員会を開きまして、各２事業ずつの評価をしていただいております。昨年度におきましては、第１回目の評価の委員会を１０月、その後１か月ごとに計４回評価の委員会を開いております。

○杉原委員 １０月、１１月、１２月、１月、２月で毎月１回開催という形で、それぞれの回で２テーマずつということだったと思う。去年、令和７年度私参画させていただいたときの外部評価報告書いただいたが、そういった資料があればこの委員会でも何が行われていてどういう形で物が進んだかというのが見えようかと思いますので、今後そういった資料がもしつけられるようであれば助かると思います。

○木和田企画課長 本日御用意はさせていただいてなかったんですが、ホームページにもアッ

プしております。次回ですか、この評価につきましてまた7年度の事業についての評価が出来上がった段階でまたお示しをさせていただきたいと思います。

○杉原委員 去年かなり評価は厳しかったと思います。出されている結果、目標値としての設定のその設定自体に問題があるという提言であったり、後期計画、前期計画、大きなグランドデザインがある中で微調整が行われていないんじゃないか、目標が形だけのものになっているんじゃないかということも数多く発言されたと思うが、そのあたりいかがでしょうか。

○木和田企画課長 確かに委員含め厳しい意見いろいろいただきました。特に内容を申し上げますと、まず前年に委員から指摘された内容についての事業の改善とか前向きな取組が行われていないのではないかと、課題、実績に対する分析自体が不十分であって問題点がきちっと洗い出させてないのではないかと、あとほかの事業にも言えるんですが、市民の方への周知がきちっと行われていないのではないかとという厳しい御意見をいただいたところでございます。

○杉原委員 出てる結果がそのようなものであるということに対してのフィードバック、今年、去年厳しい指摘があった。要は、周知が足らない。そのことに対して今年のアクションはいかがですか。

○木和田企画課長 これまでいただいたそういった指摘につきまして、担当課としましてもこれから評価を各部署で行っていくところではありますが、委員御指摘の点をしっかりと理解した上での評価を進めていくようにというふうな、直すというか、そういったことは伝えております。

○杉原委員 僕、タウンミーティングでもこの委員会、行政評価で参加された方とも再開しました。非常に残念なことだったことは、もう諦めようかと思ってると言われた。何年も市民からフィードバックしても改善されないと。委員会の中でも指摘されてましたけど、具体的なアクションとしてPDCAを回すということをチェックするということを市民がやってもそれが行政の中にフィードバックされないというそのジレンマの中にいるので、これはもう無理なんじゃないか。ちゅ話が合ったが、その意見がある中で今去年厳しい指摘があったその周知に対しての告知が足らないということに対しても具体的にプランが上がってないわけです。具体的に何をやらなくてはいけないということを言われているにもかかわらず、まだできてないということは業務が前に進んでないとも取られます。具体的に去年この点を指摘されているので、今年はこういった形でこの期間例えばパブリックに対してこういったアクションを取りますというふうにならなければ行政委員、市民が行政に対して評価するということが無駄に終わってしまう可能性があります。そのあたりいかがでしょうか。

○木和田企画課長 こちらも十分認識をしております。先ほども最初申しあげました施策を毎年8つの施策を選定して行っているんですが、それが全部全て、施策全て回り切るのが4年を要するんです。指摘された当然事業、部署につきましては委員からの厳しい内容とどういったところを重点的に改善すればいいかと、評価をすればいいかというところは十分認識したと思っております。ただ、それがその担当部署から次に生かされて市民委員会に評価いただくのは数年後になります。とはいえ評価を委員会で受けてない事業につきましても、先ほども申しあげました報告

書は当然各担当にはしっかりと読むようにという指摘はしておりますので、しっかり自分事、自分が指摘を受けたという認識の中で評価、それから事業を今後見直していくというところを進めるようにと伝えておるところでございます。

○杉原委員 指摘事項について理解はされていると思います。ただ、そのことが行政評価の方の当時の中での委員会でもあった話の中で、そもそも向き合い方自体を協議したほうがいいという話もありましたが、それはいかがですか。

要は、指摘されてることは分かりましたよと。ただ、それに対してどう次アクションを起こしていけばいいかに対しては分かり得てないという判断もあるので、そこを協議したいという話もあったわけです。

○木和田企画課長 確かに評価自体が事業、それに見合った形の、次に改善するための評価に見合ったものになっていないとかというところの認識が確かに薄い状態になっていることは認識しておりますので、そのあたりを個々の職員なり、もしくは最終的に評価する部課長なりがきちっと両方を共有した上で実施していくことが必要ではないかと思っております。

○杉原委員 しっかりしたものにならないと市民も諦めてしまうわけです、これもう言っても無駄だと。予算を割かれているわけです。それは微々たるものだとありますけど、来られている委員は物すごくやりがいを持ってこられているので、何らかの形で改善が見られる業務を行っていただくことはできますか。

○木和田企画課長 各それぞれの部署につきましてもそういった委員の思いとも十分理解してもらいつつ、よりよい事業になるような見直しも含めて事業を進めていくように周知というか、指示をしていく形で考えております。

○青山委員長 ここでほかの委員の意見も聞いてみたいと思います。

○尾尻委員 評価によってちゃんと事業は見直ししたりするんですか。

○木和田企画課長 全てではありませんが、当然担当も評価の中でこの事業を続けていくことが大本である総合計画のほうの到達するポイントにマッチしないとかなという結論に達すれば翌年度の事業の見直しとかに反映させていくという形を取っているところです。

○尾尻委員 先ほど何か言われた去年はすごい評価が悪かったと。ここ何年かの事業は多分市民の方からしたらすごい評価が悪いと思うが、それは見直していくあれはあるんですか、今やっている大きな事業とか、いろいろ無計画のままやった事業があると思うが。

○木和田企画課長 そういった事業につきましても担当部署は十分理解していると思います。指摘された評価も大きな事業ではないものにつきましても評価が高い、低いもございましたし、一概には言えないですが、現在の市民の方から、市民代表ですが、市民の方からのニーズとそういった要望、希望、そういったものを十分酌み取れるような形での今後事業を行っていく形になるのではないかと考えております。

○尾川委員 この行政評価の前提の総合計画についてPRというか、計画書本体をどういうふう
にPRしようか、その辺実態を教えて。

○木和田企画課長 まず、内部につきましては各職員に配付するとともにホームページ上にも計画のほう載せております。また、各施設、皆様市民の方が御利用される施設また各学校につきましても配付をしておるところでございます。

○尾川委員 今ホームページとか各職員に配付ですけど、市民に対してはそんな眼中にないというふうに理解したらええんですか。

○木和田企画課長 なかなか市民皆様に全員お届けすることは難しいところではあるんですが、委員の御意見も以前お聞きしております。ですので、皆様にこの総合計画の大きな施策8つございまして、それぞれを広報で、今計画しているんですが、広報のほうで連載して簡単なかみ砕いた形にはなるかもしれませんが、広報に連載で載せていかせていただこうかと考えております。

○尾川委員 概要版と理解したらええですか。本体は1月に終わったけど、もう何か月もたつとるわけですね、もうはや8月。概要版もまだ出てない。ついてけえと市民に言うたって、PRの仕方は市民にどういうふうに概要版、概要版が全て分かるわけじゃないけど、概要版でも配ってやるしかねえんかなと。言いたいことは伝えていくという努力を重ねにゃいけんと思うけど、そのあたりについてどういうふうにお考えか。要するに、執行部で職員だけ知るときゃええと聞こえるけど、そのあたりについて意見をお聞きしたい。

○木和田企画課長 今回、先ほど申し上げました広報に連載する内容につきましては、これまでの概要よりももう少し簡単な分かりやすい形で最初は中学生ぐらいで分かる形がよいかなとは考えたんですが、ある程度専門的な用語はできるだけ省きつつ、分かりやすい形でこういった事業、方向性で市は事業に取り組んでおりますという形でお示しできるかなという形と、決して職員だけでこの内容を完結させるという考えは持っておりませんので、先ほど申し上げました各施設に総合計画は提示しておりますが、ほかにも何か皆様に分かりやすい方法とかございましたら、何か御参考となる御意見ございましたらいただければと考えております。

○尾川委員 概要版か説明会か、速やかにもう8か月からたつとんですから、そのあたりのPRというか、市民についていってもらいてえならついていってもらう方法をしてもらいたいということと、もう一点外部評価の在り方がどうなっとんかなと。前に私も一般質問したことあるけど、市と関係のある人が外部評価委員になってみたり、矛盾した話ですよ。第三者委員で今福岡県議会のほうでどうすりゃあというて第三者の問題が出てきとるけど、これと一緒に外部評価の在り方を、備前市と大いに取引したりする人が、昔はですよ、外部評価委員になったりしとることを聞いたことあるが、そのあたり矛盾はないですか、今は。

○木和田企画課長 ここで任期が終わりますので、8月から新しい方になるんですが、今回も公募で、実は公募で募集をしております、現在学識経験者としては大学の先生を2名、あとは市民の方ということで、決して利害関係とかということではなく、もう純粋に応募していただいた方の中で選定まではいかないですが、お願いするという形です。今回、特に女性がこれまで1名だったところが2名になったと。できれば女性の御意見も取り入れたいところはございますので、そういったところで特別な方をあえてお願いするといったことは行っていないところござ

います。

○森本委員 外部評価で構成員の方は公募っておっしゃられたけど、結局は公募を何人ぐらいされているんですか。見たら6年、7年、大体似た方のお名前が上がってると思うけど、公募された人数を教えてください。

○木和田企画課長 委員の方全員で7名ですが、公募は実際全員ですが、学識経験者につきましては昨年、以前から同じ先生にはお願いしておりますので、引き続きという形になります。

先ほど杉原委員は、昨年委員としてお願いしていたんですが、ここで御辞退いただく形でしたところでございます。

結局7名のうちの2名が先ほど言いました学識経験者で残り5名が公募、割合としてはそういった形となっております。

○森本委員 その5名の方、公募してもなかなか厳しいから結局お願いしているということですよ。同じ方の名前が2年連続、継続という形も取られてるというふうに考えたらそうですけど、市民の関心度というものの公募なんであると思うけど。

○木和田企画課長 これまで継続されていた方もいらっしゃったんですが、今回逆に継続の方はそのうち2名、それから残り3名につきましては新規の方となっております。

○青山委員長 杉原委員途中で申し訳なかったけど、ありますか。

○杉原委員 外部評価自体やってる理由が去年よりよりよくなるためにPDCAが回っているわけ。なので、本事業も去年のフィードバックをしっかりと踏まえた上で具体的な改善を行われることを強く希望します。

○青山委員長 ほかに質疑を希望される方はおられませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、水道事業、下水道事業についての調査研究、現状、全体像についてお願いします。

○行正水道課長 水道課からお手元の資料に沿いまして備前市水道事業の現状と全体像について御説明いたします。

まず、1、水道事業の基本原則と経営状況についてでございます。

水道事業は、市民生活に不可欠な重要なインフラとして地方公営企業法に基づき水道料金収入で全ての経費を賄う独立採算制を原則として運用しております。令和6年度決算における財務状況につきましては次のとおりとなっております。

有収量、これは送水された水のうち料金収入の対象となった水の割合で73.10%、経常収支比率、これは経常収益が経常費用をどの程度賄えているかを示す指標で92.30%、それから料金回収率、こちらは水をつくるコストを水道料金収入でどの程度賄えているかを示す指標で87.28%となっております。

続いて、令和6年度末時点における施設の耐震化率について御説明いたします。

基幹管路の耐震化率は32.8%であり、全国平均の44.6%を下回っている状況です。一方で、浄水施設の耐震化率は89.6%と坂根浄水場の耐震化が完了したことから全国平均の4

6. 7%を大きく上回っております。配水池の耐震化率は51.6%、全国平均65.9%となっております。

次に、2、水道事業の課題として大きく3つ要因がございます。

1点目は、人口の減少に伴う減収で、事業収益の柱である家庭用の給水量が年々減少しております。

2点目は、老朽化と更新コストの増大で、高度経済成長期に整備された管路や施設が一斉に法定耐用年数を迎えており、更新や耐震化に多額の費用と時間を要する時期に差しかかっております。

3点目は、収支の硬直化で、給水収益が減少する一方で近年のエネルギー価格の高騰や委託料の上昇が事業経営を圧迫しております。こうした課題に対して将来世代へ過度な負担を残さないよう現在3の経営健全化への具体的な取組を進めております。

1点目は、料金徴収業務等の直営化で、令和7年度より外部委託から直営へ移行いたしました。これにより委託コストを削減するとともに、市民サービスの向上と業務ノウハウの蓄積を図っております。

2点目は、計画的なアセットマネジメントで、管路DBなどを活用した計画的な更新に加えリスクや優先度の高い基幹管路を重点的に更新、耐震化することで投資の平準化と最小化を目指しております。

最後に、4、今後の展望と持続可能な体制構築について御説明いたします。

今後も安全・安心な水を安定的に供給し続けるため、次の3つの施策を展開してまいります。

1点目、適正な料金体系の見直しで直営化等による徹底した経費削減を前提としつつ、今年度策定します水道事業経営戦略に基づき将来の膨大な施設更新費用を賄うための適正な料金水準への改定を検討してまいります。

2点目、施設の適正規模化で将来の需要予測に合わせ施設規模の適正化を検討し、コストの抑制に努めます。

3点目、水安全計画の運用で坂根浄水場をはじめとする各施設において引き続き高品質な水質管理を徹底してまいります。

○青山委員長 水道事業の説明終わりましたので、水道事業についての質疑を希望される委員は挙手をお願いします。

○杉原委員 1の(2)施設の状況、令和6年度末のところですけど、基幹管路の耐震化率が全国平均より低い理由は何ですか。

○行正水道課長 これまでなかなか経費面もありまして耐震化が十分できてなかったというところと、坂根浄水場の更新を先にさせていただいたという状況もあると思います。

○杉原委員 浄水施設の耐震化率、その下にある全国平均46.7%がほぼ倍の89.6%ということですが、今言われているのが坂根浄水場が大規模更新整備が終わったので、そっちを優先したから基幹道路の耐震化率が下がっているという理解でよろしいですか。

○行正水道課長 基幹管路の更新に経費が賄えてなかったということです。今年度からなんですけども、管路DBというところで設計等施工を一体的に発注する方式で基幹管路を更新していきたいと考えております。

○杉原委員 もう一回説明してもらっていいですか。

○行正水道課長 基幹管路の更新については今回坂根浄水場の耐震化を優先させていただいたというところで十分できてなかったんですけども、今年度から管路DBというところで、Dというのはデザイン、Bというのがビルドというところで、設計と施工を一体的に外部発注しまして、基幹管路の更新を随時していきたいと考えております。

○杉原委員 工事はDBっていうやり方によって進められていくってことですか。

○行正水道課長 今年度、DBという方式が適正かどうか踏まえて今後発注を検討していくというふうに考えております。

○尾川委員 2の水道事業の課題の中で法定耐用年数40年等と、これはどういう意味ですか。

○行正水道課長 施設にも浄水場であったり、浄水場の中でも機械であったり、また管路であったり、いろいろ物によって耐用年数が違うということで40年等と書かせてもらってます。

○尾川委員 法定耐用年数についてももう少しフレキシブルというか、40年に限定せずに、そのあたりの運用はどういうふうになっとんですか。

前はある程度フレキシブルに要するに40年以上になっても場所とか重要性とか、いろんな勘案してやっていくという考え方のようなことを聞いたことがある。そのあたりの運用は現実はどうなっとんですか。

○行正水道課長 今年度も配水管であったり、給水管であったり、そういったあたりの漏水調査を行っております。その結果を踏まえて順位づけをしまして更新をしていきたいと考えております。

○尾川委員 方針というのはそんなぐらぐら変わりよるわけじゃねえんかな。そのときそのときによって言葉尻をつかまえるんじゃないけど、そんなときで40年だったり、50年じゃというたり、そういうことはないんかな、担当者によって。

○行正水道課長 耐用年数はあくまでも目安ですので、その状況に応じて更新を検討しております。

○尾川委員 目安というたらどういうふうに捉え方すりゃええわけ。耐用年数と耐震化率はどう関係があるか知らんけど、そのあたりについてどういうスタンス、取り組んでいきよるわけ。

○行正水道課長 耐用年数、先ほど申し上げましたように一つの目安ではあるんですけども、実際の漏水とか管路の種類に応じて更新を検討しているという状況です。

○尾川委員 いろいろ施設の状況にも耐震化率とかという、要するにそれは理想と現実は違う話で、バックアップというのはどういうふうにお考えで実際実務をやっていきよんですか。

○行正水道課長 緊急の故障が発生しないことが一番ですけども、発生した場合は給水車とかで配送、配水をしております。

○尾川委員 給水車の話出たけど、給水車でも1台でええんですか。想定はどんなですかという質問をしよるわけ。バックアップはどういうふうに考えて、ある程度めげてもしょうがねえと。そのカバーするのにどういうふうに考えて対応しとるよという考え方を聞きよるわけ。

○行正水道課長 給水車は2台ございまして、そちらのほうで緊急の場合は対応するように考えております。

○石原（高）委員 今のバックアップの件じゃけど、浄水場は坂根と今吉永と2つだけですか。

○行正水道課長 水道事業のほうは坂根と吉永と、あと三国東部、その3つになります。

○石原（高）委員 吉永と三石、それから閑谷等は送水管がつながっている状況でございますか。

○行正水道課長 厳密に言いますと坂根と吉永はつながってないと、三石と吉永もつながってないという状況です。

○石原（高）委員 今のバックアップの件だったら三石と吉永は同じ道でつながってるということがあるんで、金谷にも浄水場があると思うけど、そこから野谷へ逆に三石の配水池へつなげていく、逆に閑谷へ配水池があると思うけど、そっちへつないで吉永の水を逆に困ったときには備前のほうへ送っていくということも検討されたらどうかと思うけど、どうでしょうか。

○行正水道課長 御意見ありがとうございます。料金面も含めて検討することになると思いますけども、その辺が見合えば今後検討していきたいと考えております。

○石原（高）委員 結局備前市の場合は浄水場が一番低いところにある、低いところからどんどん高いところへ送っていく、効率が悪いけど、逆に水道水としたら地下水をくみ上げて急速ろ過とかをしなくても浄水できるという形が取られとると思うけど、水をつくるコストは多分少ないと思うけど、なかなか収益になっていないのが不思議というところが一つあります。

あと、職員の問題だけど、人事交流はええと思うけど、専門職がずっとおられるかどうか、それが一番不安だけど、人事交流で何年かしたら替わっていく、水道のことが全然分からん人間がどんどん増えていくということを懸念しよるけど、その辺は今のところどういう状況でしょうか。

○行正水道課長 全国的な課題だと思うんですけども、備前市も同じように水道専門という方はなかなかなくて、ベテランと言われる方がいないというのが課題ではあります。

○石原（高）委員 前、合併する前水道局という形で独立しとったと思うけど、合併後は職員交流があるということで水道の技術管理者も今きちっとおりますか。

○行正水道課長 技術管理者は置いております。

○石原（高）委員 担当課長に言うてもしゃあねえけど、基本的には水道とか下水とか専門職が必要と思う。人事交流も必要とは思いますが、水道は水道で専門的な人がもう常時おるという形で緊急なときにはすぐに対応できるという体制を取ってもらいたい。人が替わったから分たらん、ちょっと待ってくれという形が今小さな工事でも起こってくると思うけど、これからについてはもう専門職を何人かは確保していただいて、災害が起きたときでもちゃんと対応できる、そうい

う体制を取ってもらいたいというのが一つの課題と思っていますんで、人事交流も必要だけど、そういう方向で進めてもらうように引き継いでもらいたいと思います。

○尾尻委員 先ほど出たDB、このDBは施工方法ですか。

○行正水道課長 先ほど申し上げましたのはデザインビルドというところで、従来の工法というのは設計と施工を分けて発注してたと思うんですけども、それを一体で発注するという発注の方式です。

○尾川委員 具体的な話じゃけど、最近片上地区で市道の2号線か、メイン道路のところじゃけど、水道関係の水漏れが多いけど、その原因は分かるとるわけ。

資料館の前のところ、最近水漏れ結構あの辺ずっと続きよる。それについてどういうふうに判断されとるか、見方。

○行正水道課長 漏水が起きる原因は老朽化が大きい原因ですので、今はその都度対応してるんですけども、どこかの時期では大きく改修はしないといけないなとは考えております。

○尾川委員 要は老朽化が進んどるということを言よんか、それとも過度な圧がかかったんかとか、そのあたりどういうふうに思われとる。耐用年数の範囲内か耐用年数超えとるのか、その辺を具体的に。支線じゃからどんなかなと思うて。

○行正水道課長 個々にはそれぞれの事情があると思うんですけども、基本的には耐用年数が大きい原因と考えております。

○杉原委員 坂根浄水場は企業債か何かが返還になっていくのがいつから始まるんですか。キャッシュが目減りしていつてるのは過去を見れば分かるが、もともと赤字事業でやっていく、一番最後に料金の値上げもありつつ一般財源からの持ち出しが発生するのがいつからなのかという質問です。

15億円の企業債償還が本格するタイミングがあると思います。

○行正水道課長 手元に資料がないので、分からないですけどまだ据置期間かなと考えております。

○河井建設部長 令和5年に借入れをしておりますので、基本的には5年据置きの30年償還にはなってようかなと思ってますので、令和10年ぐらいから元金が発生するかなと。ただ、2年に分けて借りていきますので、さらにその翌年に次の元金が発生すると。15億円借りているのは令和5年に6億円少々、それから令和6年に9億円少々を借りて合計15億円ほど企業債を借入れしていますので、その元金償還が合わせて合算されるのは令和10年から11年にかけてという形になろうかなと思います。そういったときには償還額がそれなりの償還額が出てまいりますので、財政状況に影響するというのはもう避けて通れないというような状況でございます。

○杉原委員 ざっくりでも毎年の試算額って出てるんですか。15億円を30年で償還する。

○河井建設部長 今正確な数字は申し上げにくいですが、単年で約6,000万円程度の返済になったんじゃないかなとは思ってるんです。

○杉原委員 手元のキャッシュは減り続けていつて、もう財源が来年、再来年と年間6,000

万円コストでかかってくると単純に数字だけたたくと要はキャッシュアウトするタイミングとかがあるのが避けられないとの話に聞こえるんですね。一方で、基幹道路に対して経年劣化に耐えられてない耐震化の問題もある。であれば、業務の効率化を直営化されたり、計画的なアセットマネジメントをやられているということはもちろん大事なことだと思うが、料金の値上げのタイミングをお願いする形でも早く財源を確保しないと水道管の破裂とか、そういったことを後手に回る形になるんじゃないかというふうな話に聞こえるが、いかがでしょうか。

○行正水道課長 今年度水道事業の経営戦略を策定する予定ですので、その中でも施設の更新とか管路の更新も踏まえた計画を策定することにしておりますので、水道料金にも反映していきたいと考えております。

○杉原委員 今年のどのタイミングぐらいで計画案が、練り直されたものが出るとは思いますが。

○行正水道課長 来年1月ぐらいをめどに計画は策定しまして、それから審議会から1年ほどかけて答申をいただきたいと考えております。

○杉原委員 料金の値上げのタイミングもそのあたり。今ざっくり計画案が決まってない部分であると思うけど、そのぐらいな感じで思っただけのほうがいいですか。

○行正水道課長 計画ができてすぐというわけではございませんで、審議会で検討していきたいと考えております。

○青山委員長 よろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、続いて下水道事業についての調査研究を行います。

資料の説明をお願いします。

○野崎下水道課長 お手元の資料に沿って下水道事業等の概要について説明します。

整備状況、処理区域、人口として令和6年度決算時点で2万5,323人、これは備前市の全体人口の約8割強になります。

内訳として1、下水道事業、管路延長約34.2キロメートル、以下に各処理区名とその区域並びに供用開始年を記載しております。

2、浄化槽整備事業、市町村設置型浄化槽整備事業ですが、神根、三国地区の一部で合併浄化槽を125基管理しております。

一方、下水道事業及び市町村設置型浄化槽整備事業の区域のほかは個人設置の合併処理浄化槽の区域となり、一般家庭には補助金を交付しております。

次に、耐震化率、管路のうち重要な幹線22%、処理場25%。

次に、経営状況、経常収支比率94.3%、経費回収率98.2%、一般会計繰出金10億7,216万9,000円。

続きまして、課題及び今後の計画として、1、老朽化対策及び耐震化についてですが、施設の老朽化や腐食による事故が全国的に散発し、問題となっています。また、巨大地震への備えとして施設の耐震化も重要です。そのため、効率的かつ効果的な施設の改築や更新を行うための計画

を令和８年度と９年度で作成予定としております。

２、下水道使用料金の適正化についてですが、今後人口減少による収入の漸減が見込まれることや、物価上昇によるコストの上昇からますます経営状況が悪化することが予想されます。また、近年の決算においても欠損金が発生していることから、持続可能な経営のため適正な下水道料金の検討が必要です。

○青山委員長 説明が終わりました。

質疑を希望される委員は挙手を願います。

○尾尻委員 この公共下水事業、供用開始の整備率、これってこっからどのぐらい増える、備前処理区が９７％、三石処理区が９１％、日生処理区が８０％、もうこの程度で終わるものなのか、まだ延ばす予定はあるものか、教えてください。

○野崎下水道課長 この整備率って申しますのは整備した広さ、こんだけのエリアについてこっだけ整備しましたよというのが整備率になるわけですが、その整備予定エリアの中には農地も含めて家がないところも含まれております。そういった関係で整備率が上がっていないように見えるところもありますが、基本的にはほぼ全体的にもう下水道事業については概成という見込みでございます。したがって、新しくその区域内に団地ができるとか、そういったことがない限りこれ以上広げるということは考えておりません。

○尾尻委員 ２番の耐震化率ですが、これは重要な幹線の２２％ということですか。

○野崎下水道課長 お見込みのとおりです。

○尾尻委員 この耐震化率はまだこれから増やしていく見込みはありますか。

○野崎下水道課長 先ほど申し上げましたように、巨大地震の備え、そういった観点からも当然増やしていかなければならないと考えております。

○杉原委員 料金自体の改定もストックマネジメント計画を令和８年度と９年度で作成予定となっているが、それに合わせて適正化するというイメージでいいでしょうか。

○野崎下水道課長 先ほど水道課の報告にあったように、審議会がでございます。これは上下水道審議会ということになっておりまして、水道課と調整をしながら一緒に進めていくということになるかと思います。

○杉原委員 独立採算の企業会計だと思うが、決算としては非常によくないという状況でしょうか。

○野崎下水道課長 独立採算制という観点から申しますと、経営状態はよくないと言えます。

○杉原委員 もしかしたら管理しなくちゃいけない範囲を超えてなのかも分からないですけど、他市との差分、安全性を担保するために必要な事業に必要な財源として備前市として行われているかということがそれぞれの自治体によって理解とか解釈が違うと思うが、他市町村、赤穂市なんて水道料金がすごく安いとか、そういった話がある中で、どういう位置づけで備前市、例えば偏差値みたいな分かりやすい点数みたいな形でもいいですが、理解したらいいでしょうか。ここ

で申し上げにくい部分もあると思うんですが。

○野崎下水道課長 他市の状況を研究というのはなるほど非常に大事なことだと思います。しかしながら、他市と比べてというよりも今の現状がどうなんだ、経営状態がどうなんだ、持続可能的に事業を進めていくにはどうなんだというところでまずは備前市の下水道事業の把握をするところから1番と考えております。持続可能というキーワードで今後そういった料金も含めて考えていっているというところでございます。

○尾川委員 最近備前市辺り降雨が少ないけど、私ら一番心配すんのは100ミリかどうか分かりませんが、局地的な降雨量によって下水がバックするというか、非常に噴き上げてマンホールが壊れる状況になるけど、そういうことについての考え方は。特に片上地区は低いところで、市の全体の下水が来るようになってくる。逆流するというか、そのあたりの対策は。浦伊部のポンプ場も動力アップしてくれとるけど、そのあたりでどの程度まで想定範囲内というふうにお考えか、推定の段階じゃから分かんけど、そのあたり説明してもらえたらと思う。

○野崎下水道課長 昨今想定外のことが不思議ではなくなったっていうところで、100%何も対応できるかというたらこれはもう無理というところでございます。そういったことがないようにベストを尽くすというところになるんですが、当然先ほど委員おっしゃられたポンプの能力でとか、適切な事前のそういう調整とかというところではできる限りの工夫をするというところでございます。

○尾川委員 いろいろ難しいと思うけど、そういうこともたまたま向こうのほうで上越というか、関東地方が多いけど、あれだけ降ったらどうにもならんことになるんで、ある程度頭の中に残して対策も、あれもこれもというわけにいかんけど、考えといてもらいたいという問題提起です。

○青山委員長 よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので、以上で水道事業、下水道事業についての調査研究を終了いたします。

これをもって本日の総務産業委員会を終了いたします。

午前11時44分 閉会